

## 平成27年度 第1回学校評議員会記録

- 1 日 時 平成27年7月21日(火) 15:00~16:05
- 2 場 所 宮古高等学校小会議室
- 3 参加者 学校評議員 5名  
校長・事務長  
(全日制) 副校長・総務主任・教務主任・生徒指導・進路指導副主任  
(定時制) 副校長・教務主任・生徒指導主事 計 15名
- 4 記 録 (進行 千葉副校長)

委嘱状(5名分) 交付(校長より)

- (1) 開会のことば(千葉副校長)
- (2) 自己紹介
- (3) 校長挨拶(本年度の学校運営について)

学校評議員の皆様に対し、日頃より本校の教育活動に対するご理解とご協力を頂いていること、本日もご多忙の中ご出席賜ったことへの感謝の意が述べられた後、本年度の学校運営についての説明があった。震災から4年が経過し、生徒たちは落ち着いた生活を送っているものの、仮設住宅から通学する生徒もいる状況にあり、PTSDが心配される生徒等、学校カウンセラーや特別支援員を配置しながら学校全体で対応している。進路については、昨年度は国公立大学100名以上合格、部活動では今年度既にヨット部・ボート部・放送部が全国大会出場を決めている。文武両道に頑張る素晴らしい学校ではあるが、生徒たちは全体的に大人しく、若干反応がなく静かである。様々な観点から忌憚のないご意見を頂き、今後の学校経営に役立てて参りたい。

- (4) 学校概況説明(全日制副校長)

資料のとおり

- (5) 学校概況説明(定時制副校長)

資料のとおり

- (6) 評議員から

[A 評議員] 校長先生の挨拶をお伺いし、宮古高校の生徒たちがよく頑張っている姿が目につかび、大変嬉しく感じた。中学校に戻ってその話を全体に伝え、ますます頑張れるようにしていきたい。また、仮設住宅・PTSD・特別支援員等のお話もあったが、高校では広域から生徒が集まってきており、地域によって生徒の状況が異なるのか、具体的にはどのようなケースがあるのか等、可能な範囲内で構わないのでお聞きしたい。

[全日制教務] 震災の影響で心的ダメージがあると疑われる生徒がおり、被災との関連は不明であるが、体調を崩しがちな生徒もいて、支援員等で対応をしている状況にある。

[定時制教務] の仮設住宅から通学する生徒や震災で心に傷をもつ生徒が存在し、普段の会話でも配慮するようにしている。

[A 評議員] 中学校の方でも外部講師を招いての職員研修を実施しており、実際に被災していなくても同じ地域の人々は、全てが同じ被災者なのだという認識が大切というものであった。震災対応において強調しすぎるとトラウマ(心的外傷)となり、全く触れない

わけにもいかず難しいものがある。

[B 評議員] 進路について、岩手医科大学医学部に昨年に引き続き連続して合格していることは大変素晴らしい。看護師の奨学制度も宮古市にはあり、様々な被災者支援制度も利用して欲しい。生活面では、現在、問題行動ゼロということだが、スマートフォンに関する状況を教えて欲しい。定時制に関して、不登校の生徒等に対する昼間部の設置状況を知りたい。

[全日制生徒] 携帯・スマホはほぼ全員が所有している。指導されるケースは少なくなっているが、根絶はできていない。従来は、交通安全講話と合わせてサイバー犯罪防止の講話（携帯・スマホ指導）を実施していたが、平成27年度は、携帯・スマホの指導を重視する観点から分割して安全講話を開催している。今後も日程調整しながら、年度の早い時期に実施したい。

[定時制生徒] 定時制でも殆どが携帯・スマホを所有している。届出制ではないが、学業とプライベートの部分を自分なりにしっかり区別し、マナーを守って使用しているように思われる。

[校長] 定時制昼間部を設置しているのは、岩手県では現在3校（杜陵高校・杜陵奥州校・久慈長内校）だけである。全日制と定時制昼間部は教育活動の時間帯が重複してくるため、独立した施設・設備が必要となる。定時制昼間部を増やしていくためには、こうした課題をクリアしなければならず難しい問題となってくる。

[B 評議員] 定時制の生徒は、夜の授業に抵抗はないのか。

[定時制教務] 夜の授業に特に抵抗はないようである。朝起きられないとか、昼間はアルバイトをするとか、むしろ夜の授業の方が良いという生徒もいる。

[C 評議員] 40年宮古に住み続けている地域住民の視点から。今の生徒は大人しい。元気がない。挨拶しない。勉強も部活も忙しく疲れているのかも知れない。昔は商店が学校の近くにあり、様々な悩み相談等、地域の人々（大人）との交流の場にもなっていた。それが今は無くなり、生徒たちが一息つき、ストレス発散できる場が無くなっているのではないか。地域の中で挨拶を交わす環境整備が大切である。

[全日制生徒] 生徒たちの交流・情報交換の場については、それが今は、ネット上で携帯・スマホを利用したラインによるもの等になっているのかも知れない。

[副校長] ライン等、そこには大人が介在できていない。

[全日制進路] 生徒たちの忙しさを、進路課の立場から考えても模試や課外や部活動以外にも様々あり、大変であろうと感じる。そうした状況の中でのラインについても、教員のラインや携帯・スマホによる生徒とのやり取りを望ましいものとはしない昨今の状況を考えると、介入のあり方には難しいものがあると感じる。

[定時制生徒] 自分の悩みを口に出して相談することが出来ないという生徒が、定時制では多いのかも知れない。

[D 評議員] 定時制の先生方の指導もあり何とか卒業できる生徒もおり、定時制の先生方には感謝している。いじめではなく、家庭環境の問題で不登校になる場合もあり、周囲の大人が支えてあげる環境づくりが大切である。

[定時制教務] 教室にいなければ、連絡を入れて様子を注視しながら、こまめに丁寧に対応することが大事であり、保護者との連携も重要となる。

[校長] 特に定時制では、生徒人数が少ないので個々への対応も厚くできている。

[C 評議員] 昔は携帯・スマホがなく、皆が友達だった。先生も生徒も人間と人間の関わりがしっかりもっていた。挨拶の重要性等、社会人になってからもますます必要となり、普段から声に出して実践していなければならないものである。人間同士の関わりを大切にすることで、

高校生には今からの指導が重要である。

[全日制進路] 教職員も生徒も常に何かに追われ多忙を極める中で、コミュニケーション能力がますます大切になるのではないかと思う。顔を合わせなくても交流できる携帯・スマホ、ラインというのは少し心配である。ちゃんと見ているよ、という安心感が大切なのかも知れない。まずは声をかけることが大切なのだと感じる。

[副校長] 「いじめ」に関して、全日制・定時制より説明して下さい。

[全日制生徒] いじめに関するアンケート調査について、今年度既に実施済みであるが、結果としては「いじめ」は確認されていない。「いじめ」という明確な事例はないが、「からかい」や「間接的な情報提供」についても軽視せずに要観察としながらも注視していく必要がある。

[定時制生徒] 定時制でも「いじめ」に関し、今年度、保護者・生徒にアンケートを実施した。いじめの実態については、定時制でもなかった。本人に悪気がなくても、受け止める側にとってみれば「いじめ」と認識されることがあるという指導を行っている。

(7) その他 (特になし)

最後に校長より学校評議員の方々に対して謝辞が述べられ閉会。

(8) 閉会のことば (千葉副校長)